

令和5年度 第2回中央特別支援学校 学校運営協議会 報告

1 日 時 令和5年9月21日(木) 午前9時30分～11時30分

2 会 場 本校 高等部⑦番教室

3 参加者

(1) 学校運営協議会委員

- 【委員①】 静岡市あさはた緑地管理事務所 所長
- 【委員②】 静岡県立こども病院 副看護部長兼教育看護師長
- 【委員③】 静岡てんかん神経医療センター 療育指導室長
- 【委員④】 静岡県社会福祉協議会 福祉企画部経営支援課長
- 【委員⑤】 静岡大学教育学部 准教授
- 【委員⑥】 本校 PTA 会長

(2) 校内教職員

校長、副校長、教頭、事務長、各部主事、病弱・訪問主任、寮務主任、防災課長

4 会議次第

- (1) 校長あいさつ
- (2) 目的確認と校内参観
- (3) 運営協議会からの感想・意見
- (4) 本校の防災における1学期の取組の紹介
- (5) 非常時における本校の取組及び各機関のリソースについての意見交換等



「会議風景」

5 校長あいさつ

今年度の運営協議会のテーマは「防災」。本校は、学校経営計画に「安心・安全」「生きる力を育む」「地域や社会に開かれた学校」と柱を示し、防災は「安心・安全」に入る。児童生徒の生命を守るものであり、教育活動の要となるものである。先日の台風で線状降水帯が発生し、局部的豪雨や、短時間での集中豪雨など、従前の自然災害と様変わりし、予測のつかないものになっている。災害時に迅速に対応するためには、経験や予測力が必要になる。学校以外の立場からの視点でアドバイスをいただけると有難い。

6 校内参観

第2回目の目的は「本校の災害時における対応」「実行可能な他機関との連携」について協議したい。それぞれの所属との連携について御意見をいただきたい

(1) 2階フロア

- ・2階で学ぶ生徒たちは、学級毎個々に避難する。本校は耐震性Ⅰa、一部Ⅱとなっている。
- ・このフロアからの屋外避難は二通りあり、屋外スロープと屋内スロープがある。
- ・AEDと新しく購入したストレッチャーあり。防火シャッターの設備の特徴について。

(2) 1階昇降口・フロア

- ・引き渡しは屋根の下に4台ずつ実施。児童生徒は待機するスペースを各学部で計画。

- ・教室の場所によっては、避難経路は掃き出し窓より芝生広場へ避難する。場所によって教室からのスロープ設置あり。
- ・外部に通信できるよう、各フロアに携帯電話あり。
- ・非常用電源(校内数か所)は赤いコンセント。屋外に蓄電池の設備があり、太陽光発電からも充電している。

(3) 校舎外通路周辺

- ・コンクリートの割れが目立つ。この通路を挟んで地盤が弱い。もともと漆山という山があった。こども病院側は山だったので地盤が固い。
- ・数か所ある防災倉庫について
- ・給食は舎の調理室で作って運ぶ。もし火災などが起こった場合、校舎と舎でとの一括放送設備がないため、対応に遅れがないよう連絡の必要あり。

(4) 福祉避難所指定と災害対策本部

- ・体育館と舎の一部が指定された。(舎の耐震評価はⅡ、体育館はⅠa だが地盤が傾いている)福祉避難所として割り当てられた人数だけなら良いが、予想以上の人数が集まることの懸念あり。
- ・災害対策本部が離れており、対応のタイムラグが出ないか心配がある。
- ・地域の防災委員との連携のため、地域の防災用トランシーバーを預かっている。

(5) 非常食について

- ・非常食は5日間分を依頼。食形態に応じきれないことがあるため、各家庭で準備し持参。発災時に運び出す。その日数以上の避難生活を送ることも考えられる。
- ・県より予算(人数分には足りていない)で準備している非常食もあり。(今年:入替えの年)
- ・本年度より水はPTA会費で購入。各学部で保管。

(6) 物品管理と転倒防止等の対応

- ・地震対策として長机等は、チェーンや砂袋等で固定。基本的に棚類は全て固定している。棚は倒れないが、棚の中身が出ないように備える必要がある。
- ・教材等の「物」が多く対応を考えている。アドバイスをお願いしたい。

6 運営協議委員からの感想・意見

(1) 委員①

- ・備蓄がしっかりしていると感じたが、気になることは「物が多いこと」。チェーンもプラスチックなので大地震ではどこまで大丈夫か。また、物が転がってきた時には避難しにくいように見える。が、全般的に廊下は広いので動きやすいと思う。
- ・福祉避難所という事だが、今までの被災時にはあまり機能していない。東日本地震では認知されておらず、その後の熊本地震でも全く機能していなかった。設営と運営、避難者が来た時に誰が対応するかなど考える必要がある。

(2) 委員④

- ・福祉避難所は、行政と協定を結んだ施設で、行政から依頼されて開設する。
- ・DWATでは、先日浜松で開設訓練を実施。現在はトリアージなしで福祉避難所に直接避難が可能。行政がマニュアルを作り、避難して来る方は、有事にならないと分からない。家族でケア可能な人と一緒に来所する等のルールあり。福祉避難所には、10人に1人の相談員が派遣されるとあるが、配置等は未決。令和3年度より各市町で要援護者の名簿を作成し、個別の避難計画を作成することが努力義務あり。

(3) 委員⑤

- ・見学で思ったが、避難時に「ガラスが多い。」通路や窓側にガラスが多く使われている。

どう対応していくかが課題となる。

- ・非常食の管理が難しい。個別対応のものは仕方がないが、一括で良いものもある。アウトソーシングすることで教員の負担が減ることも考えたい。

(4) 委員②

- ・施設の高さは、大人がしゃがむなどすれば良いが「幅が狭い所があること」は気になる。車いすが曲り切れないと、避難に支障が出るのではないかな。
- ・「物が沢山ある」という印象。お金はかかるが、壁に付いた収納庫・棚などを設置することも考えられる。壁につくことで倒壊の心配は無くなる。

(5) 委員③

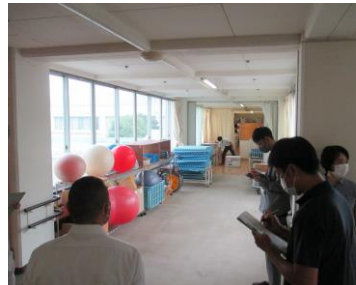
- ・子どもの家族への「連絡方法」や先生たちへの連絡方法について。
- ・5日分の食料を保管としているが、学校で生活することを想定していると思う。その対策はどうなっているのかを知りたい。

(6) 委員⑥

- ・「芝生広場に避難した後の避難について」気になる。こども病院側にはフェンスがあり、段差もある。寄宿舎側に行く際は、通路の屋根が古いので倒壊することも考えられる。芝生への避難した後の対応について考えたい。



「校内参観」



「非常食保管」



「意見交換」

7 本校の防災における1学期の取組について(防災課長、病弱訪問主任)

(1)大雨(6月2日)の対応と引き渡し訓練

- ・実施後の反省からマニュアル改訂し、解決策を講じて、校内引き渡し訓練を実施。

(2)災害時の留置きに向けた研修の取組

- ・指示を待つのではなく、自発的な行動が命を救う。被害を最小限にとどめる日頃の備えが重要。人的・物的不足が予想され、課題が多数あることを共通認識。対応策が必要。

(3)病院との連携

- ・数年前より病棟と話し合いを重ね、施設毎のマニュアルを確認したところ、非常時の対応は施設によって異なる。各施設を合わせると30人近い教員が訪問しており、発災時の病棟指導や教員の安全確保と確認、本校への帰校について等について協議が必要と考える。

8 意見交換

(1) 委員②

- ・災害時の役割：非常時に主体的に動けるために役割カードを使い役割を周知。
- ・人工呼吸器のバッテリー：常時、何日、何時間使えるかを確認して、共有しておくといよい。
- ・中央の職員が周辺の道路の安全を確認するとあるが、危険ではないか。
→ 副校長：先日周辺の4施設での話の中で、情報を自分から取りに行くことが必要と確認。4施設で情報を共有していく方法を、今後検討。

(2) 委員③

- ・保護者との連絡ついて。メール以外の個別対応の連絡方法等と、計画的な取り組み方について知りたい。
 - 防災課長: Coccoo は、ほぼ全ての保護者が可能。保護者の開封確認後、個別に電話連絡して確認。災害伝言ダイヤルも併用。
- ・センター内でも不十分などところがあり、先生たちの動きも、帰校するのが安全か、病棟内で子ども達といるのが安全か、状況によって変わるため想定できない。

(3) 委員④

- ・連絡方法としての Coccoo や、屋外スロープや防災倉庫のトイレなど、「日常や訓練時の使用頻度」について。発電機、防災トイレ、倉庫点検日頃どう使っているかが大切。
- ・袋井市で行われた訓練で、「医療機器が直接つなげられる蓄電池」あり。

(4) 委員⑤

- ・災害の種類や障害の種類も多くなり、学校の防災課は大変と感じる。
- ・「マニュアルの見える化」が必要。マニュアルだけだと限界あり。研修などを通して、マニュアルを基にどう動くかの検証が大切。マニュアルを越えていくことが必要。
- ・災害は時系列で考えたい。時間軸で整理することで具体的な対応が考えられる。スクールバスもあり、エリア的に見ること、災害種の特徴を考えていくことも必要。
- ・こども病院前の橋が落ちたらどうなるのか。こども病院、てんかんセンター、北特支は他の方向からのアクセスができるが、中央は奥まっけていて孤立している。4施設が集まった際には話題に挙げる必要がある。
- ・防災への準備には限界がある。アウトソーシングすることで、地域の力を借りながら、その限界を広げていくことができる。

(5) 委員⑥

- ・保護者は遠くから来ている。周囲の災害被害がどこまで広がっていくか分からない。
- ・地域のトランシーバーを活用していくことは有効と感じる。Coccoo を使い情報のやり取りをしているが、状況は刻々と状況は変化する。情報の整理や状況に合わせた対応が難しい。
- ・保護者も情報が欲しいが、一斉に情報が集まっても錯綜する。解決できていない課題。
 - 校長: 昨年度の豪雨災害後に、保護者よりラインなどで情報のやり取りをしたが、充電切れが心配で全部を確認できないといった情報あり。情報の伝達方法は複数用意することが必要。

(6) 委員①

- ・情報共有の方法: 土木事務所のカメラが遊水地に 10 数ヶ所設置あり。ホームページの「観測所一覧」から見るできるので、周知しても良いかと思う。
- ・イベントを開催する団体によっては、ホームページ(アプリ)の情報で判断を周知しているところがある。判断基準はこれを使っていると伝えておくと良いのではないか。しかしながら、どこで、どのタイミングで判断するかは重要。
- ・訓練は大切だが、いつの=どの季節の、何時か、などと想定も大切。訓練で全てをやり切ることにはできないが、何かこれだけはと訓練の中心を決めることが大切。

校長より

- ・訓練では、時間帯や曜日の設定が難しい。また、人員を設定しても、実際に動けるかは違ってくる。マニュアルのように動けるためにどうしたらよいかを考えていくようにしたい。
- ・初動ができていると次を動かすることができる。防災については次から次に課題が出てくるが、これからもご意見をいただきながら対応していく。